商店街がスポーツ・音楽・文化の発信基地となる

甲府商工会議所

| 機関名 | 甲府商工会議所 | | | |
|--------------------|-------------------------|-----------|------------|-----------|
| 所在地 | 山梨県甲府市相生 2 - 2 - 17 | | | |
| 電話番号 | 0 5 5 - 2 3 3 - 2 2 4 1 | | | |
| 地域概要 | (1)管内人口 | 19万 2 千人 | (2)管内商店街数 | 85商店街 |
| 事業の対象となる 商店街の概要 | (1) 商店街数 | 2 商店街 | (2)会員数 | 71商店 |
| | (3)空店舗率 | 7.5% | (4)大型店空き店舗 | 舗数 0店 |
| 商店街の類型 | 1. 超広域型商店街 | ②. 広域型商店街 | >3. 地域型商店街 | 4. 近隣型商店街 |

【事業名と実施年度】

平成14年度 空き店舗対策事業

- ・まちなかヴァンフォーレプラザ
- ・まちなかイベントホール
- ・まちなかものづくり工房
- ・ナイトフェスティバル

総事業費

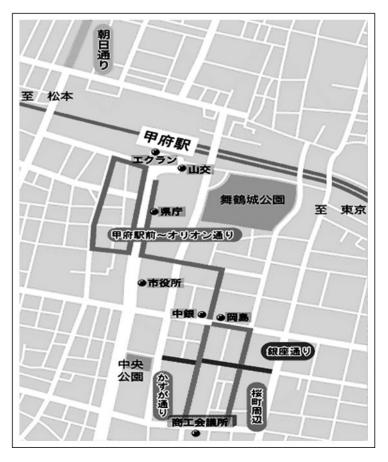
23,200千円

【事業実施内容】

1. 背景

甲府市中心市街地は、周辺町への 大型店の相次ぐ出店や中心市街地大 型店の撤退等により空き店舗が増加 し、空洞化の進行に拍車がかかって いる。

そこで「おもてなし」、「ふれあい」、「交流」など商店街が従来から有する「街の顔」としての機能を現代にマッチした姿でアレンジしながら、今までにないショッププラザイメージを展開するとともに、若者から高齢者までが集えるスポーツ、文化、芸術、憩いなどを切り口とした新しい時代の潮流に沿った店舗集積等を創出し、商店街活性化の起爆剤とする。



甲府中心商店街(甲府商工会議所ホームページより)

2. 事業内容

総事業費 23,200千円 (うち補助対象事業費 19.500千円)

事業期間 平成14年7月1日~平成15年3月31日

対象商店街 かすが商店街振興組合、甲府駅前東栄会

(1) まちなかヴァンフォーレプラザ (ヴァンフォーレ甲府プラザ)

ヴァンフォーレ山梨スポーツクラブの協力のもと、サッカー J 2 のヴァンフォーレ甲府の サポーターなど多くのスポーツファンが自由に集い、語り、ふれあいのできる場を商店街内 に設置した。

①ヴァンフォーレ選手紹介コーナー、大型テレビによる試合のビデオ放映、メッセージボードの活用

ファンや県民・市民がいつ立ち寄って もヴァンフォーレ甲府の最新情報に接す ることができるように、選手一人一人の プロフィールと顔写真の掲示や、ヴァン フォーレ甲府や商店街情報をタイムリー に発信するためにメッセージボードを設 置した。

②チケット・グッズ販売

通常は試合会場でしか入手することができないオリジナルグッズをいつでも入手できる施設を設置し、集客効果を狙った。



試合ビデオを観戦する子供たち

- ③インターネット無料体験コーナーの設置 インターネットが無料で体験できるコーナーを設置した。
- ④イベントの実施

県民・市民の関心の高いヴァンフォーレ甲府のイベント事業を実施することによる集 客効果を狙った。

・ヴァンフォーレ選手と県民・市民との交流会の実施

日時:平成15年3月2日(日) 午後1時30分~午後3時30分

場所:商店街内モール

まちなかヴァンフォーレプラザ前(サイン会)

内容: クイズ大会、リフティング大会、サイン会、バンド演奏 FM甲府ラジオサテライトスタジオへの出演 当日は、ヴァンフォーレ甲府の松永新監督やレギュラー選手、スタッフなど約 20名が参加し実施した。

- ・ヴァンフォーレ甲府が勝利した翌日に限っての商店街割引セールの実施期間:平成14年7月19日~平成14年11月24日
- (2) まちなかイベントホール (ライブ&トークハウス)

中心商店街では、以前からアマチュアストリートミュージシャンが集い活動している。そこで、地域コミュニティ放送局であるFM甲府と連携し、音楽、文化等を切り口としたコミ

甲府商工会議所

ユニティの場を提供することにより、来街者の増加を促進し、さらに年に一度の商店街全体 を活用した「まちなかの音楽コンテスト」を実施した。

①サテライトスタジオの設置

地域コミュニティFM局であるFM甲府と連携し、定期的に当該施設から甲府ウィークなどのイベント番組や若者向けの音楽番組など28回、延べ72時間放送するとともに、「まちなかヴァンフォーレプラザ」や「まちなかものづくり工房」のPRなども積極的に行った。

②ライブハウス

ストリートミュージシャンなどのアマチュア音楽家の発表場所や練習場所として活用 した。また、その人達が交流することによって、新しいバンドが生まれ、CD発表する ことになったグループも現れた。

③イベントの実施

当該商店街はアマチュアストリート ミュージシャンが集まる場所として人 気が高く、かつて県内著名となった 「伸太郎」なども生み出していた。

そこで「まちなかの音楽祭コンテスト」を企画し、音楽愛好家や一般市民 を集客するイベントとなるよう実施し た。

一般からの応募は36組あり、イベント当日も若者を中心に多くの来街者を 誘客することができ、集客効果として は一応の成果が上がった。



まちなかの音楽祭コンサート

日時:平成14年10月13日午前11時~午後6時

場所:商店街内モール

結果:グランプリ(ましゅまろ)、優秀賞(FEEL)、奨励賞(ESSENCE)

(3) まちなかものづくり工房 (カルチャー教室、クラフトショップ)

趣味・教養などの自己啓発に関心のある消費者が増加していることから、カルチャー教室、体験工房、作品の展示即売を企画実施し、商店街への来街者増加に努めた。

①カルチャー教室の展開

山梨県押し花倶楽部と連携し、押し花、アートクレイシルバー、ポーセラーツ、パーチメントクラフト、ペーパークラフト、カリグラフィーなど8種類の教室を展開し、約400名の参加者を得た。

②体験工房

来街された人達で、時間に余裕のある人を対象に体験工房を実施した。体験工房への 参加者は約100名であった。

③クラフトショップ

教室で作成した手作り作品や、県民・市民の手作り作品を預かりクラフトショップと しての機能を持たせた。

(4) ナイトフェスティバル

甲府駅前から中心商店街への誘客を図るため、街路樹などを活用した電飾によるイルミネ

ーションを施し、更にナイトバザールや路上 ミニコンサートを開催することで歩いて楽し い街を演出し、来街者の回遊性を高め集客力 の向上を目的として実施した。

①ナイトジュエリー甲府

甲府駅前の樹木5本へ約5万個の電飾 を施し、話題性と夜の賑わいを創出した。 点灯期間:平成14年12月2日~平成15 年2月14日



ナイトバザール (商店街による露店)

②ナイトバザール

甲府駅前のイルミネーション点灯期間

のうちの3日間(毎月第2土曜日)、回遊性を高めるために、かすがも~る商店街を中心に商店街各店での割引きサービスなどを行うナイトバザール、路上ミニコンサートを 実施した。

【効 果】

(1) まちなかヴァンフォーレプラザ

- ①空き店舗対策として商店街にヴァンフォーレ甲府のプラザを設置したことは話題性があり、当施設を利用した人数も約3,500名と本事業の目的である商店街への集客効果はある程度果たせた。
- ②今まで一般県民・市民がヴァンフォーレ甲府に関する情報やグッズなどに気軽に接し、 利用できる施設がなかったことから、利用者にとっても意義のある施設であった。
- (2) まちなかイベントホール (ライブ&トークハウス)
 - ①一般市民への同ホールの無料開放を行い、そのことが契機でまちづくり市民団体「KAI」が結成され、商店街イベントの仕掛けや実施を自主的に行い商店街のリーダー的存在となった。
 - ②音楽祭イベントを開催したことは、県民・市民から若者文化の発信として捉えられ、若 者の集客という効果を達成することができた。
- (3) まちなかものづくり工房
 - ①主婦層の利用が多かったことから、商店街内の洋品店、生地店などでの購買につながった。
 - ②カルチャー教室の参加者は決して多くないが、甲府市以外の市町村から参加された方も おり、甲府市中心商店街の存在の再認識につながったと思われる。

(4) ナイトフェスティバル

中心市街地はその都市の顔として、話題性、地域貢献性を発揮していくことが重要であり、 本事業はその意味から有益な事業として実施できた。

このような事業は観光面からは県内外の人々にアピールをすることができ、今後継続する

甲府商工会議所

事によって誘客に繋がるものであり、商業の面からは県都甲府市の中心商店街の存在意義を 高めるものである。

【課題・反省点】

- (1) まちなかヴァンフォーレプラザについては、他に類がない施設であり着実に認知度を上げている。しかし、その他の施設については思うように独自性が打ち出せず、事業の認知度も低調である。広報活動にも重点をおいたつもりでいたが、十分な認知度を得ていたといえない。
- (2)人的体制については兼務にならざるを得なかったため、今後はNPOなどとの連携も視野に入れたい。
- (3) 更に店舗運営に対する協議を個別に数多く実施し、相互の役割の明確化や課題の発見・ 解決に注力をしていきたい。

【教訓】

- (1) 地域が必要としている施設や地域が元気になるような施設展開を見いだし、取り組むことは、地域社会のなかで商店街に求められていることでもある。
- (2) 中心街で県民・市民がともにカルチャーを楽しむことは街を明るくし、また、当該施設への関心も高まった。中心街が文化や教養などを市民に提供する担い手となるよう、まちづくりの一要素として取り入れるべきである。

【関連 U R L】

甲府商工会議所 http://www.kofucci.or.jp